

marina park city

西宮浜

マリナコミュニティ



今年の修学旅行

初の沖縄へ

西宮浜義務教育学校

コロナ禍以降、日程短縮や延期、行き先変更など、さまざまな制約がありました。今年の修学旅行は制約なし。そして行き先は沖縄！ スローガンは「うーりきさん〜沖繩はきつと楽シーサー〜」。

「うーりきさん〜」は沖縄の方言で「うれしい、面白い、楽しい」という意味です。子どもたちのわくわくした気持ちを表すのにぴったりの言葉です。

実行委員長の田中佑奈さんは「修学旅行を通じて、普段は経験できないような見方や考え方を知り、沖縄の大自然を肌で感じ、沖縄の歴史を通じて平和の大切さを学ぶ。そ

して、残り少ない学校生活の最高の思い出にしましょう」としておりコメント。

旅行期間中は沖縄県に大雨警報が発令され、バナナボートや国際通りでの班別活動など、当初の予定を変更せざるを得ない事態が相次ぎました。そうした中でも、生徒たちは臨機応変に対応し、旅を楽しめていたようです。(取材:木戸)



うまくできた？ シーサーの色付け



大水槽の前でピース！



ホテルの学年レクも大盛り上がり

私が一番思い出に残ったことは、海で遊んだことです。本当はマリンスポーツ体験でバナナボートをする予定でしたが、大雨でできなくなりました。それでも少し時間をもらって、みんなで遊んだのが、一番楽しかったです。(9年生 柴田小波)



僕が修学旅行で一番思い出に残ったことは、2日目の夜に行ったレクリエーションです。僕は実行委員だったので内容を知っていましたが、想像以上に盛り上がりすぎてとても安心しました。最後は先生チームの優勝ということでも楽しかったです。(9年生 加藤愛翔)

「校区探検」でマリナパークを学ぶ

西宮浜義務教育学校3年生が「校区探検」と題して、マリナパークシティを街歩きする授業を5月29日に実施しました。

校区に赴き、ふるさと西宮浜の街並みや特徴を学習しました。社会科の学習も兼ね、地図を確認しながら歩いて方位を体感。訪問場所の地図記号も学びました。

児童たちはおしゃべりしながら、毎日通っている街並みを授業として歩き、普段とは少し違ったマリナパークを感じられたようです。校区探検をきっかけに、もっと自分たちが住むまちに興味を持ってもらうことしましょう。

(梅元)



西宮浜公民館で話を聞く児童たち

修学旅行スローガン

うーりきさん
沖繩はきつと楽シーサー♪

～旅の行程～

大雨のため一部()内に変更

6月12日

学校集合で出発式！
神戸空港から那覇空港へ
平和祈念公園で平和学習
その後、ホテルにチェックイン

6月13日

おきなわワールドで見学・体験
昼食後にバナナボート
(⇒DMMかりゆし水族館)
ホテルで夕食後に学年レク

6月14日

チェックアウト後に
首里城公園を見学
国際通りで班別行動
(⇒那覇空港内で班別行動)
那覇空港から神戸空港へ
帰校後、解散式



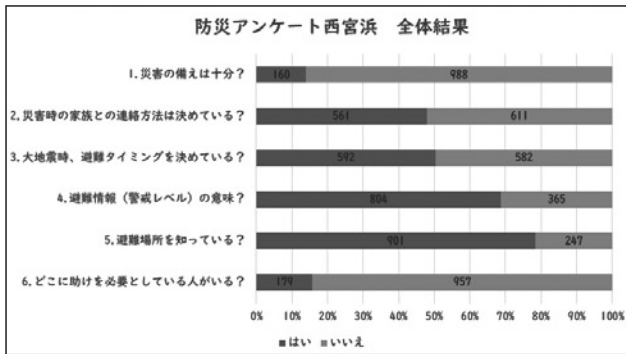
もしものときのために (西宮浜地区防災計画)



西宮浜の防災について考えよう PART.IV

今年4月に「もしものときのために」という冊子を西宮浜の皆さんに全戸配布しました。突然郵便受けに入っていたので驚いた人もおられたことでしょう。

そもそも「地区防災計画」とは、なじみのない言葉ですね。今回の防災特集第4弾では配布した冊子の説明を、6月9日に開催した「第8回西宮浜の防災・減災を考える会」で説明した内容に沿って説明します。



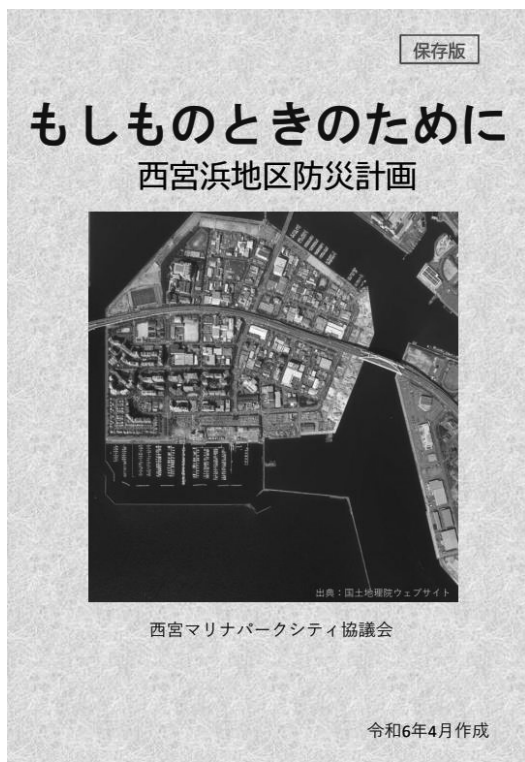
● **地区防災計画**
翌2022年、アンケートの状況を改善するために、住民参加型の地区防災計画を作成するのが良いのではないかとということにな

● **2021年のアンケート**
西宮マリナパークシティ協議会が2021年に実施した防災に関するアンケート(対象:海、桜、杜、花港、戸建て)で、「家族全体での災害に関する備え」や「地域の中でどういった助け合いが必要か」について取り組みが進んでいない状況が明らかになりました。

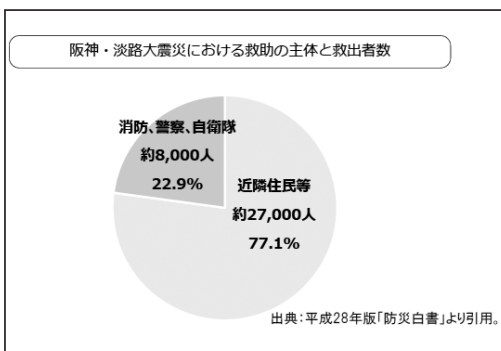
一方、阪神・淡路大震災時に、救出された約8割の人は、近隣住民の協力によるものでした。この教訓から、大災害時は行政(公助)ができることには限界があるので、近隣住民など(自助、共助)による防災力を高めることが重要

● **地区防災計画とは**
防災に関する計画は行政が作成するものとして、国が定める「防災基本計画」と都道府県と市町村が定める「地域防災計画」があります。これらは、漏れがないように詳細に記したもので、ページ数も膨大です。

り、地区防災計画の作成を始めました。



全戸配布した冊子



ということになり、平成26(2014)年に災害対策基本法を改正して「地区防災計画制度」がスタートしました。そのため「地区防災計画」は住民の手で作ることが最大の目的で、内容も漏れがないようにというよりは、できる

● **西宮浜版作成の経緯**
西宮浜は他の河川流域地区や山沿いの地区とは異なり、河川の氾濫による洪水、がけ崩れなどの危険性がなく、その結果、西宮南部一帯に避難指示が発令され、避難所が開設されるような気象状況のときも、避難所が開設されることありませんでした。このような状況下でまず大事なことは、西宮浜地域住民の防災意識を高めることです。西宮浜

ことを記すことが大事なことで、フォーマットは問わないことになっていきます。何よりも最大の目的は、作成を通じて住民の防災に対する関心度を上げることにあります。ただ、地域の人に漠然と何でもよいといってしまうと、どうしたらよいか分からなくなるので、モデル地区を指定して専門家を交えて作成したり、市町村の防災部署が作ったひな形に地域独自の問題とその対策を盛り込めばできるといえるような形もあり、実際、西宮市では多くの地区の地区防災計画は、市が作成したフォーマットに沿ったものになっています。

は阪神・淡路大震災の復興住宅という側面もあり、被災経験者が多いため防災意識の高い人が多いのですが、一方で大半の人は、日々の暮らしに追われ「防災が大事なのは分かるが、その時はその時。何とかなるだろう」と思っているようです。

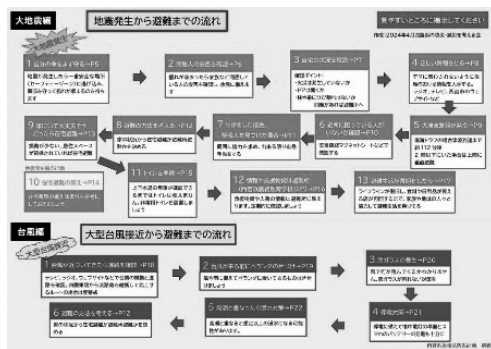
地区防災計画作成の最大の目的である「住民の防災意識の向上」に寄与するためには、単に計画書を作成するだけでなく、それまでにさまざまな討議が必要ということになりました。

●西宮浜の防災・減災を考える会

西宮浜の防災は、過去には自治会による防災訓練や西宮マリナパークシティ協議会による防災マップ作りなどを行ってきました。協議会には防災部会がありますが、防災部会に出席しているメンバーは、西宮浜の人口のおよそ半分の人の代表に過ぎませんでした。そこで西宮浜全体から希望者を募り、防災を考える場として設立されたのが「西宮浜の防災・減災を考える会」です。この会は3カ月に1回の



第1回考える会のチラシ



別紙のフローチャート



防災フェスタでの人文字

セミナーの他に、有志による実行委員会でセミナーにふさわしいテーマを選び、防災上の問題点の掘り起こし、さらにそのメンバーから数人を選んで「地区防災計画書」を執筆、編集する「作業部会」を作りました。

「西宮浜の防災・減災を考える会」は、2022年7月の第1回から2023年11月の第7回まで開催し、基本的な考え方、西宮浜の防災上の特色、避難はどうするか、避難所はどのような所か、自宅避難の留意点、医療と救急処置について、要支援者問題を取り上げました。それらをまとめ、さらに加筆したものが「もしものときのために」になります。編集に当たっては「ひな形にとらわれない独自のものとす」「西宮浜の写真を取り入れるなど身近に感

●西宮浜地区防災計画「もしものときのために」の特徴

別紙と本文の2部構成になっている。A3両面印刷の別紙は、片面が災害時のフローチャートで、本文への目次も兼ねています。裏面は西宮浜4丁目地区の防災マップになっており、こちらは平成27年に作成したものをアップデートしています。ぜひ見やすいところに掲示してください。

じることができるとする」「状況ごとにどうすれば良いかが分かる手引きとして使えるようにする」などに考慮して作成しました。

28ページある本文は、フロ

ーチャートの内容の詳細説明になっていきます。また、その他に読み物として西宮浜の防災上の状況についてと、『宮っ子』2023年9・10月号に掲載した「西宮浜以外で被災した場合」についても載せています。ぜひ一度、目を通して、取り出しやすい所に保管しておいてください。

●防災フェスタ in 西宮浜
今年の『宮っ子』5・6月号でも紹介された「防災フェスタ in 西宮浜」は、実は地区防災計画の一環として企画しました。先に記述した通り、地区防災計画の最大の目的は住民の防災意識の向上です。これまで実施してきた「西宮浜の防災・減災を考える会」

のセミナーでは、毎回大変活発な意見交換がされてきましたが、一方で毎回の参加人数が45人程度と、一部の防災に熱心な人の会合という側面もありました。そのため、より多くの人に参加してもらうことを主眼に開催したのが「防災フェスタ」でした。

●今後について
地区防災計画は、一度作れば終わりというものではありません。今後も、セミナーなどを通じて、いろいろなテーマを取り上げていく中で改訂していきたいと思っています。セミナーは年度に3回(6月分は終了)の実施を予定。年明けには第2回防災フェスタも開催したいと現在検討中です。

皆さん、ぜひ参加してください。

●説明会実施
第8回西宮浜の防災・減災を考える会で冊子説明会を開催し、約50人が参加しました。ダイジェスト版を西宮浜の防災・減災を考える会通信No.8として配布します。

「編集：朝香」

